

## 第三章 南滿地域

## 第一節 位置及区域

本章に取扱ふ地域は概ね東經一二〇度乃至一二八度、北緯三八度四〇分乃至四四度の間に包含され関東州、安東省、通化省、奉天省、錦州省に一部吉林、興安南西省の南部を含む区域である即白頭山を頂点とし、開魯（新京西々南約三二〇吉）―山海關の線を底邊（約四一〇吉）とし白頭山、鴨綠江、渤海海岸線、旅順、渤海海岸線、山海關の線（約九〇〇吉）及白頭山―松花江―吉林―新京―開魯の線（約七〇〇吉）、各一邊とする不等邊曲線三角形を成形して居る鴨綠江は略く東岸一邊の過半を松花江及西遼河に概ね西北から北方に亘る他の一邊を作り自然の区劃を成す

前記の底邊に略く平行し底邊と頂点との殆んど中央を南北に大連―長春の鉄道線が通じて居り以東は概ね山地以西は平地に大別し得る平地の殆んど大部は東、西遼河と大遼河との水域であるが新京附近より以

北は松花江の水域に属する、山地は白頭山を中樞とし南に分派するもの長白山岑、西に分派するもの龍岡岑北に分派するもの新開岑東北に分派するもの哈爾巴岑、五英額岑等の諸山脈があつて長白山岑と龍岡岑との間を鴨綠江、遼江が龍岡岑と新開岑との間を松花江が流れて居る

本地域の西方部位には特に明瞭な境界線がなく逐次沙原狀の丘陵地帯となり熱河方面は地勢急峻再び山地の様相を呈し渤海に接する所長城と相峙つて山海關の狹隘を成し北支鞏東の平原に通ずる

更に開魯附近から西北内蒙方面に向つては遠く沙丘連なり次第に沙漠的感ぜを與へるに至つて居る

## 第二節 戰略的觀察

## 第一款 本地域の戰略的價值

本地域は滿洲の重工業施設、主なる動力源、炭鑛、鉄鑛等を包含し農畜産業を除き一農畜産業の中心は逐次北滿に移行しつつありと考へられる。各種産業の主体は此處に在り人口最稠密滿洲と支那本土、朝鮮とを連ねる鉄道極東ソ領に通ずる鉄道等悉く輻輳し航空海上交通の中心亦此地域に在り政治經濟軍事の中樞を形成し又朝鮮及日本に對する航空、地上作戰の爲重要な基地を提供して居るから本地域を確保し得たならば極東ソ領に對し更に作戰する場合を除いて滿洲亞域の大半を掌握したものと云うことが出来る尙旅順大連附近にはソ領潛水艦の基地を豫想せねばならぬから普海に於ける制海權の爲にも本地域の價值は甚大である

更に重複を顧みず本地域の戰略的價值を要約摘記すれば左の如くである

一、東亞大陸外より速に滿洲に向う作戰に方つて大兵力を以て実行し得る

唯一の方面である即ち沿海州北鮮、山東半島に連る一連の防衛線を比較的迅速容易に突破し且速に之を擴大し得る部位なること

二、滿洲全般の作戰或は北支経路の基地として重要な意義を有すること

三、日本及朝鮮に對する侵入作戰竝日本、朝鮮、黃海及日本海上に向つてする航空作戰の基地として大なる價值がある又北支、外蒙、西伯

利等に對し政戰兩略を目的とする爆撃の基地として重要である

四、黃海及渤海を制する潜水艦基地を提供する

五、北及西北正面よりの脅威に絶えず暴露する弱点がある

## 第二款 隣接地域との戰略的相互關係

一、北鮮地域との關係

滿洲を東方からの作戰に對して確保するためには可成廣く朝鮮を領有して居るのが有利なことは論外であり「ソ」中共、北鮮の三者一

体化の現時に於て尙更然りである故に已むを得ない場合でも安州成  
 興から其東に亘る海岸線位は堅固に保持して鴨綠江の電力源を護り  
 且此前方據点の戰略的橋頭堡の如き作用をさせることを企図するも  
 も知れない、かうなると鴨綠江は障礙というよりも寧ろ水路交通線  
 に利用されることとなる又此場合全般の關係上時日に制約を受ける  
 ならば北鮮に於ける橋頭堡の攻略を待つことが出来ず安東―大連間  
 の沿岸に上陸を強行して此方面から戰局の打開を図らなければなら  
 ぬ事があり得る

### 三 東部との關係

前項に關聯して有力な兵団を濟南又は雄基附近に上陸させ右側を豆  
 満江に托し北進して延吉平地から本地域に進出を企図させる方策が  
 あり得るが近く浦鹽を控へ上陸に多大の困難が予想されるばかりで  
 なく絶えず右側背への脅威山地河川の錯綜による前進の滯滞等を考  
 へると当初此の方向は大ならざる獨立の一兵団を使用するのに止め

之のが適當である。

教化延吉の兩平地は本地域と密接に關係して居る即ち本地域一翼の戰略的支撐とも見るべき白頭山の北側地区へ進出するには此等平地を取敢へずの基地とする外無く又本地域から東、北滿或は東部沿海州方面に作戰の歩を進めるに方つては速かに亦此平地を確保するのを緊要とするからである何れの場合に於ても此平地に使用される兵力は相當有力にする必要があるから前項に述べた当初清津附近に上陸させる兵團を爾後適時増強する心組が肝要と思はれる。

### 三 北滿との關係

北滿の中心は言うまでもなく哈爾濱であり東部沿海州、東滿北滿、西北滿を通じ東支東線を大動脈として一貫結束せられた現狀に在つては南滿を失つても前記の各地域を相互連繫して防衛し少くも東支東線の可及的長期の保持を企図するばかりでなく漸も機を得れば攻勢に及び南滿の恢復に及ばうとするのは當然であらう此際第一の作戰上

の要線となるのは新京北方の松花江の線である。松花江に次で拉林河も亦相当の障礙を呈するので、攻防共に有力なる兵団の作戦が先づ吉林附近よりも上流の地域で開始せられ、此等障礙を爲し得れば、敵に遠く且早く通過する策に出るものと思はれる。従つて拉賓線及吉奉線は作戦上特に重要度を加へ、或は主力の作戦方向となるであらう。又松花江と嫩江との合流点附近より上流附近で渡河し、哈爾濱或は新京の背後を脅かす作戦方向は相当の價値がある。

松花江上流方面に大なる兵力を使用する場合には、道路の開設補修に特に力を用ふる必要があらう。又松花江急電施設が攻撃の目標となる場合が考へられる。

#### 四 西部地域との關係

概ね西遼河を以て界するが、同河は障礙力が大きくなく、其他は殆んど廣漠とした平蕪地の連続であつて、機甲部隊騎兵等の大規模を使用し、進して居る従つて平齋鐵道に沿ふ一部兵団の作戦の外内外蒙方面か

らす挺進的行動が豫期され機動的な戦斗が多く固定した地域戦斗は継続し難かまべく特に對空遮蔽が六ヶ敷しい關係上制空權を得た者の地上作戦に於ける優越性は絶大であらう

#### 五、熱河方面との關係

山海關の狹隘は正面攻撃を頗る困難ならしめる地形であるから本地域に北支から作戦し或は本地域から北支に向う何れの場合に於ても熱河を経る作戦は關聯して重要な價值がある唯熱河は山地險峻な所が多く且貧瘠であるから最初から大兵力を入るには適當でない然し北支より進出を企図するに方り山海關直接の突破が困難な様な聯合灤河河谷等から北方に兵力を転用し一舉に錦州方面に突進することがあり得る之に對しては概ね熱河と錦州兩省々境の線は防止の要線を成すものと思はれるが此線の弱点は右翼方面に限界のないことと特に赤峰方面に顧慮せねばならぬ

制海權の有無に依つて山海關の價値は大いに異なる



其側面に對する直接の艦砲射撃或は背後に對する上陸、空挺部隊の使用等は比較的容易に此狹隘を開放させ得る結果となるであらう

(註) 溍の明を攻めた際袁額の明軍を以てしても相当永く山海関を保持し得たやうに記憶する

昭和八年(一九三三)一月關東軍の山海関を攻撃した際は兵力少単に城壁の攻防に止りたるため半日にて陥落した

### 第三款 作戰方向

本地域に於て作戰上重要な地方には既に概ね鉄道が敷設されて居り主要な作戰方向も亦鐵道に沿つて指向される場合が多いものと考へられる尙鐵道が無くて重要と思はれる方向は滿州外から本地域に進入する場合大孤山(安東西方約七〇吉)―岫巖―海城、南滿、北滿間に於ては朝陽鎮(奉天東北方約二五〇吉)―敦化若は延吉及南滿と其西北地方地域との間に於ては開魯―林西及開魯―赤峰等である

一、東、南正面（鴨綠江より河岸一帯に亘る）

滿洲へ向ふ作戰の場合を基礎として述べる。此正面に於ては先づ朝鮮内京綏線に引続き滿洲内安奉線に沿うて主作戰方向（状況に依り一部の作戰方向）、有力な一部の作戰方向が安州―滿浦鐵―通化線及大孤山―海城、總子衛―大石橋―奉天の線之が主作戰方向となることが最も有り得る）を指し別に一部が瀋津―会寧―延吉―撫松の方向を採る。又龍巖島或は其西の沿岸から錦州―奉天の線に一部若は主作戰の方向を導くことがある。

二、東北乃至西北正面（白頭山―吉林―新京―關魯に亘る）

地形、鐵路網住民地分布の情態等から京奉、京賓線及吉奉、拉賓線に沿う地域の中間に主作戰が指向され有力な各一部が平齊線及撫松―安圖―延吉―東京城或は朝陽鐵―敦化―東京城の方向を採るであらう。此際京賓線以西は概して貧寒な地帯であるから大兵力の運用に不便なので京賓及平齊線に沿う兩兵團の中間には相當機動を許す間

際を生ずる場合がある

（西正面（開魯―山海関に亘る）

奉山線の沿ふ地域を主作戦方向とし熱河鐵道線及開魯―林西の線に  
沿ふ地域を各一部の作戦方向とする已述のやうに状況によつては某  
時期熱河鐵道線に沿ふ地域が主作戦方向となることがあり得る

### 第三節 戰術的觀察

#### 第一款 本地域の戰術的構成及区劃

白頭山を中心とし半徑五〇吉内外の圈内の区域は今尙密林で概ね無任地帯と考へ得るから相當な部隊を以てする作戦の爲には殆んど障礙区と見ることが出来やう本地域中遼京線以東の区域は滿洲への進入に對麻する爲に右の障礙区域に一翼を托し之を軸として山脈、河川、海岸に連なり北鮮から始まつて遼河河口附近に至る迄に數個の戰術要線を求めることが可能である遼京線上海城附近以北に在つては遼河に向ひ東西に流入する河川が殆んど平行的に存在し逐次要線を成形して更に新京北方松花江に及んで居るが此等の場合にも其一翼は白頭山係に依托されるものと考へ得る

北方或は西方からの攻撃に對して本地域を保持しやうとする場合も前と略く類似の観点から要線を求め得るが左側背が敵に暴露し易いのに鑒み左翼を梯次に引き下げ遼河或は海に托する着意が必要である

金州附近より以西の半島は旅大地区確保の爲最少限の一区劃を成して  
居る

連京線以西の地区は更に奉天―彰武―赤峰の線の南北に分けて觀察し  
得る以北は概して遼廣漠地としての戦術を適用することが出来、以南は  
遼河及之に殆んど平行する多数河川が少なからざる障壁となり且下流  
に濕地帯を有するから雨期には特に行動の困難なることを思はせる  
錦州以西熱河省境より山海関に至る間は山脈險峻で長城の存在と相符  
ち相当堅固を要線を成す海上艦船に依る協力は此方強に於て影響の大  
なることに注意の要がある

第二款 本地域の戰術的一般觀察  
其の一 交通

一 道路

本地域は全滿中道路網の最發達した地域で各縣城を連絡する道路及

二百万分一図上実線路以上は山間僻地を除き殆んど當物自動車の交通を許す

舗装は主要の都市（奉天、大連、旅順、長春、安東、鞍山、撫順等）の主要道路の外一般に普及して居らず碎石砂利等に依る急激的なものが多いから貨車の多数連続通過には破壊を免れず又山地の狹隘部平地に於ても濕地を通ずる部分等は不良なものが少くないので天候或は人為の些少な障礙に会つても杜絶を来すことが屢々で雨季解氷季等を特に然りとす

橋梁は主要な鉄道沿線の外殆んど木橋で又橋梁無きため渡船に依るものが頗る多い大きな河川は特にそうである雨季出水に際し交通杜絶の虞多きは申す迄も無い戦術上から見た本地域道障の欠陥の大きいものは白頭山四周の道路甚不良、致が貧弱で河川が殆んど橋梁設備を有せざることである

（註）本項 昭和十年（一九三五）頃の通化省に於ける体験を基

## 三 鐵道

礎とす但し現今も大差なからん当時撫松―安図道等は形跡あるも交通殆んど無く又撫松―漫江道の如きは單騎の通過を許す程度にして特に坂路は急峻車輛は全然不通であつた。臨江―長白道も滿洲内は不良のため朝鮮側を惠山嶺に出た、朝鮮側の道路は良好であるが河幅五〇米位より以上は全部淺松であつた。

0503

二百万分一図所載の外臨江―通化東方約八〇吉―東方五道溝附近より長白山嶺の裾野に向つて狹軌の森林鐵道が布設されて居るが其輸送力は極めて貧弱である。本地域の鐵道は概ね新京と奉天とを中樞とし各々放射狀に出で居り兩中樞の略々中央に四平街があつて重要な交叉点を成形するそうして此等三要点は奉吉線、京圖線、平輯線を媒介として連京線の東側で又白城子双遼通遼、大虎山を経て連京線の西側で各々環狀に連絡

して居る此等の鉄道網に依つて通化方面と安東方面或は大連方面との相互兵力の転用が容易であることに注意の要がある。長春及奉天から北鮮安州附近に向ひ鉄道が集中的に布かれたから該方面に對して滿洲から包圍的に作戰を行ふのに利便を得て居るが道路と同じく尙白頭山北側が空いて居り又桓仁方面及大孤方面に至る鉄道が共にまだ布設を見て居らぬことは本地域の作戰交通網上一の欠陥と言ひ得るであらう。

### 三、飛行場及氣象

本地域に於ける飛行場は長春、公主嶺等のものが従来司偵重爆の常駐飛行場として作戦的に整備せられてあつた外は鞍山に製鉄所直接掩護の遊斗飛行隊のため飛行場を特に整備し其他は補給廠、満軍民間航空隊用等の目的を主として逐次に作られたものが多く又興城、大石橋、熊岳城等の飛行場は訓練用に使用されて居つたものである。従つて爾後戦争の末期に方つて在鮮航空部隊のための後方機動飛行



場として多少の準備改善を加へた点はあるが一言にして言つて大  
 数のものは作戦飛行場としての價値が十分でなかつた殊に其配置は  
 東方よりする滿洲への進入に對慮するやうには顧慮されて居られな  
 かつたから安奉線、連京線間の地域安東から通化、蛟河附近に亘る  
 線の地域に於ては頗る疎散であり且施設も亦甚貧弱である將此等  
 の地域に於ては連京沿線に上陸阻止、地上作戦協力南鮮、日本々土  
 爆撃等の目的を以て堅固な作戦飛行場が新設又は増強されることを  
 予想せねばならぬ

本地域に進入して長春、奉天の線を領有するに至つたならば少くも  
 王府（新京西北方約一〇〇吉）雙遼（新京西南約一五〇吉）阜新（奉  
 天西方約一五〇吉）に亘る線には掩護戰鬥隊を配置し得るやう飛行場  
 を設け且平齊線或は熱河方面に作戦する地上部隊に直接協力を容  
 ならしめるのが適當と考へられる若し亦關魯附近に飛行場を設  
 得し得たならば外蒙庫倫、カリムスカヤ鐵道交叉点等に戰略據地を

加へるのに有利であらう  
飛行場気象に關し以上の外氣付きたる雜件を尋ぐれば左の如くであ  
る

1 市街地の飛行場には過近のものがあつて工場、煙突、或は煙囪等の  
爲飛行上の障礙を齎つたことは少くない

(註) 新京前偵隊にて訓練中着陸前煙突に衝突し墜落したことがある

昭和十四年(一九三九)と記憶す

2 南滿は北滿に比し結氷、解氷共に少くも十日位の厚、凍があり殊  
に南滿は南に移るに従つて寒氣の爲の鋪重度を著しく減ずるから  
新たに飛行場を滿洲に設けて南鮮、日本等の攻撃を企図するもの  
とすれば此点からしても南滿を選ぶ公算が大であらう

3 風塵の影響は北滿よりも却て大きいやうに思はれる

(註) 明治三十七年三月十日(一九〇六)日露役奉天會戰の際日本軍

は風塵に乗じて瑛河を渡り旧站附近に突入し露軍總退却の

三一〇

一因をなした

公積金の影響は山地を除き著しく少い

(註) 昭和十一年(一九三六)冬通化省に於ける匪賊討伐の結果に

よると山地でも概ね陸に達する程度であつた

#### 四 港 湾 海 岸

1 本地域に於ける港湾に關しては第二章第四節參照

2 海岸、本地域に進入するためには彼我作戦兵力の増大に伴つて上陸作戦を併用するのが必至と思はれるが其方面は通常安東大連間の黄海の沿岸に選ばれそうである然し之には敵も相当豫期して對應の處置を講ずる虞があるから状況に依つては直ちに渤海に突入し壺蘆島から山海關に亘る沿岸を上陸して山海關を扼し熱河鉄道線を選断し蘇、中共の連絡を一舉に絶ち切り在滿の中共軍の補給線を我が手中に收める方策が考へられる唯敵に對し各個擊破に有利な機会を興へることも十分顧慮せねばならぬから朝鮮方面に於

## 一、平地

本地域の平地は濕地帯（大凌河下流等を差しいものとする）  
等を除き殆んど遅ねく開墾され高粱島の如きは八月頃半ば森林に類

## 其の二 地形

ける作戦と密接に連絡し其時機兵力方法等に就て最慎重に研究する要がある又黃海沿岸の上陸と併用するのを有利とする場合の有ることも勿論である渤海方面の上陸に方つては補給港には壺蘆島を利用するのが当然であらう

渤海東側沿岸の上陸は海岸の情態からして通常適当であるまい冬季西北風強く且一部に結氷の患ある本地域の海岸であるから爾他の關係が之を許せば春季以後に上陸の時期を選ぶを可とする

（註）日露役第十師団大孤山の上陸五月

日露役第二軍花園口上陸十月

日露役第二軍獅子窩附近上陸五月

し一種の障礙とさへ見るべきものがある。然し十月頃以降は一望眼を遮ぎるもの無き曠野となるのが一般である。

平地上には小樹林、叢樹等点在するけれども森林と目すべきものは極めて稀であつて奉天東陵又は北陵の森林の如きは殆んど例外的存在といふべきであらう。

村落は煉瓦又は土壁の家屋より成り輕火器に對しては一応掩護を與へ得るが構造多くは脆弱であるから砲撃、爆撃、戦車の攻撃等に對しては價値少く従來のやうに戰鬥の焦点として數日に亘り争奪を繰り返すが如きことは追々減少するのではないかと思はれる。

(註) 日露役明治三十八年三月七、八日頃奉天北方三台子附近の小

部落は争奪三日に亘り頑強な戰鬥を持續した。

近年日、鮮人の移住に伴つて谷地に水田が増加する傾向があつたから多少地方により之に由る障礙度の増加が想像せられるが全局から

見れば大したことはないであらう  
 本地域に於ける平地は概ね次の三地域に分つて觀察することが出来る

1. 鴨綠江河畔及安東—蓋平の線以南の遼東半島沿岸周邊

2. 遼河河孟—鉄岑—法庫—彰武—阜新の線以南—

3. 松花江河孟及鉄岑—法庫—彰武—阜新の線以北の遼河々孟

イ(1)の区域は平地の中に山地が突出して居る其境界部に於て山地は割合に凸元として起り且平地の幅員が狭少であるから戰鬥は通常平、山地連接して行はれ山地の據点を確保しなければ容易に平地方面の戰鬥を進捗せしめ得ない傾がある

(註) 右の場合平地方面を全然閉却し山地のみは兵力を注ぎ込んで失敗した例は日露役得利寺戰鬥に於ける露軍であつた即ち同軍は概ね奉天線以東の山地に於て日本軍右翼を攻撃し相當の成果を挙げかけたが復州平地に對し全然顧

虜を欠いた爲同方面から混成約一旅団の日本軍の迂回に  
 会ひ退路を遮断されんとして敗退したのである

口(2)の区域中遼河以西に在つては遼河本流を始め相当の河川が多数  
 南北方向に流れ殊に奉山線以南は濕地があつて行動を阻害する従  
 つて東西の作戦方向に對しては結氷期を除き相當の輾強性を發揮  
 するものと思はれる

遼河以東に在つては平山地の關係遼東半島の場合に類似し且概ね  
 東西に流れて遼河に入る諸河川に沿うて戰術上の要線を見出す  
 ことが出来る

ハ(3)の地域は山地との接合緩急なる礫層を以てし京奉線に沿う地区  
 は概ね大波狀地を成し其以西は廣漠たる大平原であつて河川も障  
 礙となるもの甚少く機動自在である

廣漠たる平地の中に所々獨立岡阜、或は其連綿があつて戰術上の  
 要地要線を成して居るのに注意を要する

## 三 河川

本地域の河川中主要なもの鴨綠江遼河及松花江に就て概説する。鴨綠江滿鮮國境を劃る一大障礙線であると同時にダムの開設に依つて滿洲の爲の動力源として別個の重要な意義を有するに至つた沿岸に至る鉄道の開通等に伴ひ舟運水路としての價値は大いに減少したやうに思はれる。

安東新義州間の橋梁は重要な戰略目標を成形する。

鴨綠江の敵前渡河は河幅特大、流速も相當な状況に鑑み特別に資材、部隊を準備し周到な計畫の下に実行することが肝要である。単に渡河の困難及危険を避ける見地だけからすれば寧ろ結氷期を選んだ方がよいかも知れぬ。又安東以西の海岸からする上陸、滿浦鎮方面からする一部の渡河等によつて安奉線方面の敵主力を撤退の目的なきに至らせることは渡河攻撃を容易にする爲に常に努むべき所であらう。



主力が鴨綠江の右岸に後退しても有力な一部を臨江附近を中心とし半円狀に江の左岸に配置して橋頭堡的機能發揮させるやうな方策に出で得るので豫め之に應ずる處置が必要である

之がため安州―滿浦鐵道線の方面に過大な兵力を割くと縱令渡河が成功しても更に渾江の障礙があり戰果の擴大に時日を要し又却て各個擊破を蒙る虞があるのを考慮せねばならぬ

(註) 日清、日露兩役共鴨綠江の敵前渡河は主力の渡河準備成つた後一部を主方の渡河前日安平河口(安東東北約三〇吉)或は其東方に渡河させ其間接掩護下に義州方面から九連城の方向に主力の架橋渡河を行ひ成功して居る日清役に於ては滯留は虎山附近から攻勢に転じ日本軍付一時稍く危殆であつたが彼我素質の關係上問題なく露軍日露役に於ては軍の兵力の關係上全く持久防禦に終始し左側背から崩れて後退して居る

現代に於ては右の一部に相当するものは空挺兵團であり当初定州

附近に重点形成のための兵力を控置して置き再すれば速に昌城方面に重点を形成して寛甸方面から安奉線方面に突進して敵主力の退路を遮断するが如き方策を取り得るである。鳴緑江を渡河して満洲進入を企図するに方つては申す迄もなく威興或は元山方向からする右側背への脅威を胸算し之を除いて置かねばならぬ。

2 遼河は京奉線、奉大線西側地区に於て重要な要線を成形して居るが奉天附近確保の爲には過近である。従つて奉天附近に進出したならば引続き速に之を渡つて少くも大凌河の線を占め爲し得れば一舉に山海関―熱河省境の線を手に入れることが必要である。此の反面防者として奉天附近を失つても遼河の線を保持出来れば何時でも回復の希望を繋ぐことが出来る。唯結氷期となると如上諸件は総て問題とならなくなるから注意の要がある。

遼河の水運は南滿河川の中で價值最大で營口と相待つて經濟上相當の重要性がある。河口より鄭家屯迄舟運の便があり一千餘隻の舟艇

が存在する奉天、京奉線に沿ひ北進する軍隊に對する補助の補給路としては重視するに値しやう又發動舟艇を大に活用すれば輸送効率を向上するに利益する所が多いと思はれる遼河に注ぐ諸河川で本流東側のものは鐵道線路附近から上流は平水時渡渉を許すのが多く格別の障礙を爲さない西遼河の如く廣漠たる地域を貫流して居る河川は河川其ものの障礙度は大でなくても障地線等として重要を價值を持つことは否めない且流河附近の鐵橋は重要な攻撃目標である

3. 松花江は障礙度に於ては鴨綠江に次ぐかも知れぬが吉林附近から下流は北方に對して著しく凸出し北面して此線に據るものは左側背を暴露する關係となり堅固な障地線とはならない

陶賴昭（新京東北約一〇〇吉）附近から上流は兩岸が相当屹立し渡河後の進出に地形上少からぬ困難がある可航流域は吉林上流三三〇并に及ぶ陶賴昭附近の鐵橋、吉林附近の鐵道橋は共に重要を

攻隘目標である

又各河川共十二月初頃から翌年三月初頃迄結氷し車馬の通過概ね自由であり又雨期には氾濫し障碍度を著しく増大することが多い特  
に山間では交通杜絶に至ることが少くない

### 三、山地

概ね蛟河―磐甸（蛟河南方約一〇〇吉）―柳河（磐甸西南約一一〇吉）―清原（柳河西南約七〇吉）―本溪（清原西南約一三〇吉）―蓋平を連ねる線以南の山地は比高五、六百米以上のもの多く部隊の行動に著しい影響を及ぼす、山地は殆んど樹木に乏しいが概ね教化―通化の線以東には尙所々に森林が残つて居り殊に撫松―臨江の線附近から以東は原始林的密林で大なる障礙地帯となつて居る  
右密林地帯に近い地域に在つては水流の兩岸は概して急峻礮脊甚だ困難であるが傾斜変換線から以上は一般に台地を成して居る従つて此台地から他の台地に移るには急峻の谷を上下せねばならず多大の

時間を要する故に稜線上を傳はり谷地に降らずに前進出来る方向を  
を發見することが特に重要である

前述の線以西以北は低連山地若くは丘陵地の觀を呈して居り往々兀  
立する峯頂等を見るけれども概して諸兵種の運用を許し大兵力の作  
戦に適して居るそうして河川が此等の地域を貫流して居る兩岸に通  
常戰術上の要線がある特に此等山地の支脈が延びて平地の中に突出  
して居る部分には屢々良好な陸地線を求め得るのである  
山海關附近の長城が築設されて居る山脈は又別個の様相を呈し巖々  
たる岩山であつて路外の通過行動は甚だ困難である

### 其の三人文

#### 一 住民

住民の絶對多數は漢民族であつて華北よりの移民の子孫が最も多い  
次に相當數の朝鮮人少數の日本人、ロシヤ人がある滿洲民族、蒙古  
人等がゐるけれども共に漢民族化せられて特異の存在を成して居ら

ぬ

(註) 昭和七年(一九三二)齊々哈爾に旅行せる際同地電報局の吏員  
が殆んど廣東人なりしことがあつた

朝鮮人は通常集團して生活し漢民族との融和は良好でなかつたのみならず集團的に斗争を敢てすることが少くなかつた漢人は一般に民族的に朝鮮人を輕侮し朝鮮人の猜疑心亦容易に去り難いから兩者の融和は政治的環境の変化に依つても近い將來に望み薄いものと考へられる漢民族は一般に嚴正公平且仁慈なる統治に對しては比較的柔順であつて協力を吝まないやうであるが其旺盛な生活力文化に依つて長年月の間に他民族を壓倒去勢し特に其腐敗性の浸潤を受けると他民族の剛健な資性も何時の間にか銷磨して同化吸収を免れないうのが従來の歴史の實證して居る所である

漢民族社会は所謂勢に乗つて動く傾向が特に顯著な様に思はれる新勢力が大勢を制する迄には相當の年月を要するが或る程度に達すると

旧勢力から新勢力に雪崩を打つて投合し人の言ふ罽毘子の様に急激に膨脹し殆んど人力の如何ともなし能はぬ勢を成して一瞬の間に全支を支配してしまふのが常套である従つて社会の底流に對する洞察力、指導者の素質に關する判断の正鵠は漢民族社会の歸趨を見分ける爲特に緊要なやうに考へられる

(註) 辛亥革命及今次共產黨の行跡は研究に値する

住民には相当多数の武器私藏者のあることが想像される  
滿洲には華北より年々多数の季節的勞働者の移入がある

(註) 漢民族の特性上注意すべき挿話的实例に次の様なものがある

昭和十二年(一九三七)頃海城に於て滿洲國の實施して居つた青年訓練を視察したことがあるが其趣旨は現地の良民の子弟を集りて教育して社会の中堅分子を養成し安定を図るにあつたのに拘らず實際教育を受けて居る者は所謂代人が多く甚しきは浮浪者も少くない始末で地方官憲は寧ろ失業救済に利用して居る嫌があつた此

の如きは住民の感じとして人員徴傭の一種なりとする従来よりの先入感があり悪政に對抗するため馴致された社会的自衛観念の発露と見ることが出来る

之昭和十二年（一九三七）春滿洲國電約一中隊の守備して居つた樺松南方の堡寨が匪賊のため奪取され砲んど抵抗をしないで撤退した事件があつたが調査の結果中隊長は旅団長の自動車運転手を論功行賞的に任命した者で戦斗を恐怖し匪賊と妥協し之に物資を供給して居つたが協定の実行が不十分のため匪賊の怒を招き攻撃を受けたものと誤つたことがある

滿洲事変後六年を経た当時尙此種の中隊長が存在したことは漢民族の朋黨的自衛性の鞏固さを示す一例である

### 三都市

滿洲に於ける人口十万以上の主要都市は哈爾濱、牡丹江、齊々哈爾濱、佳木斯を除き悉く本地域内に在る奉天、奉天線に沿ふ各都市は概ね



城壁を有し厚さ二、三米、高さ敵米に及び奉天のものは時に強大であるが構造は意外に脆弱であつて砲撃に依り外側の煉瓦壁を破壊すれば内部の土砂崩壊し攀登の出来る斜坡を形成するものが多い（註）昭和八年（一九三三）一月滿洲事変に於て関東軍の部隊が山海關の城壁を攻撃した時は近距離に野砲を推進し砲撃に依つて突撃路を開設した

戰術的據点としての都市の價値は現代兵器に對しては大したことはないものと思はれるが宿營掩蔽等の用途は依然頗る堅切である宿營に際しては特に傳染病に關する顧慮が肝要であつて鄭家屯附近は往時黒死病の本源地として有名なことがあるが都市防護の爲飛行場以外特種の施設はないが金州附近の狹隘は旅大防衛のため自然の強固な地区を成して居る

本地域に於ける最重要の都市は勿論奉天であつて政治經濟電事の中核であり殊に工業施設の大部は擧げて此處に集中して居るから戰略

上第一の目標となる

奉天、四平街、長春、鄭家屯、錦州等の各都市は同時に交通網の要  
点として、大連、安東、營口等は港灣の爲に各々戰術上の重要な目  
標である

都市内に面倒な市街戦でも起りさうなのは奉天、長春、大連位のも  
のであらう其他は家屋櫛して貧弱、面積亦小であつて多く問題とす  
るに足るまい

### 三 物資

本地域が瀋州唯一の重工業地帯と稱せられる所以は鞍山臨江、本溪  
湖等に鉄礦及之が處理施設があり撫順、阜新西安等に炭礦を有し鴨  
綠江、松花江に発電設備を備へ且奉天及大連に相当の工場を持つて  
居るからである此等を綜合して擧げ得る生産力は尙貧弱の域を脱し  
得ぬけれども中共内に於ては他の比肩を許さぬものがある  
農産は豊富であるけれども本地域内の人口は已に飽和状態に達して

をり大兵力の作戦に際しては現地に餘り多くの補給を連続期待することには困難があらう

白頭山麓から尙豊富な林産を期待し得るが交通の改善に待たなければ急速な發展は望み難いであらう

遼東沿岸の水産、鹽業は一応着目の要があるものと思はれる。然るに本地域は滿州に於ては農産を除き最も物資の豊富な地方であるけれども一方人口の急速な増加によつて餘剰力は逐次減少して居ると見るのが當つて居るのであらうし又重需工業力も現代的整備の大重が現地に依存し得る程度は僅少なるを免れない

#### 四 運搬具

運搬具の主要なものに支那馬車、冬季の橇、自動車、河海の汽船、ヤンクである。支那馬車は山間に至る迄相當の農家は殆んど之を有し、欠くべからざる運搬具となつて居る。然し近年のものは構造逐次縮小且脆弱であつて積載量に減少を來しては居らぬかと思はれる。又其車輪

は道路を破壊すること甚しく處によつては自動車道の通過を禁止或  
 陸軍機にゴムタイヤを附けさせて居つた、自動車の増加に伴つて其  
 減少を見る物は必至であるから従来の際に大量に軍の補給を之に依  
 存するが如きことはもはや到底許されないのである自動車は已に相  
 當普及し都市は勿論昭和十二年頃（一九三七）本地域東端の山地内  
 にも交通して居つたのであるが總數からいへばまだ極めて少數の域  
 へ限して居るに從つて多數徴用の如きは問題にならず有棲住民の生  
 活を壓迫する結果を来さぬ爲にも作戦軍は所稱の自動車を擧行する  
 必要がある  
 輸は人力を以て牽くものが多く積載量少で輸送機關としての價値は  
 甚だ乏しい

汽船は沿海交通の小數旧式のもの利用は止まるであらうジャン  
 クは相當の輸送量を有するけれども其運いことと發着の不定になり  
 易いと等のための輸送機關としての價値は低い之にも作戦補給輸送

の重要部分を担任させるのは不適である。唯く河川を補修し動力を使用する舟を活用すれば水運の成果を更に大いに向上することが可能であらう。遼河に於て特に然りといへる。要するに運搬具に關しても本地域に作製する軍は現地に依らうとするべきを殆んど捨てねばならぬ民族的反抗意識が民衆に徹底した場合には全く不可能といつても過言ではあるまい。

#### 兵治安

新旧勢力が転換するに方つては新勢力は先づ奉天附近の中樞部を支配し世の實力を以て中樞部附近の治安を確立し次で各方面に損避した旧勢力の殘存軍隊を求めて之を撃破し其撤退した跡に逐次肅清を加へて治安を擴張して行く。旧勢力は撤去に方つては軍隊の一部或は適當な人員を残し所在の無難の徒を糾合し游擊的行動に依つて都市村落交通機關等を襲つて復讐掠奪人質擄致等を行ひ民衆を煽動し宣傳を行ひ旧勢力の毒餌の地帯を確保せんとし旧勢力は新勢力の治安圏外か

ら陰に陽に指導と援助とを與へて此殘置勢力の培養を図り新勢力が  
 之等の鐵壁に奔命に疲れる間、武力を恢復して再び實力を以て奉天  
 附近の恢復を図る民衆は治安の程度生活の安否に伴つて浮動し或は  
 新勢力に順応し或は旧勢力に習同し殊に新勢力が他民族をる場合等  
 には民族的反抗意識も加はつて愈々複雑な様相を呈する而も此間に  
 新勢力の施政宜しきを得ないで民衆の生活に大きな苦痛を與へ又は  
 民族感情に非常な憤激を來させる様な事があれば物情驟然となり盜  
 賊横行し新勢力分子に對する敵對行為等頻發して治安紊亂し勢の赴く所  
 民衆の蜂起といふこともあり得る就中本地域は勞働者比較的多數集  
 団して工場礦山等に存在する關係上又漢民族の此等組合等の團結は  
 通常甚だ鞏固であるから特に治安上着目を要するものと思はれる  
 以上假に設想した所で概ね明かな様に新勢力が其占有区域の治安を  
 確立するには先づ政、經軍事の中心を把握して旧勢力を分裂させ其  
 武力を徹底的に破潰して其勢威に依つて民衆を歸服し抵抗を断念さ

せ民族感情文化慣習を尊重し生活情態の改善を促進し旧勢力の弱点を衝き穿る信條標語を掲げて民心を得ることが緊要である特に漢民族の面子を立て努めて其自治に依らせるのを良しとするかくれば単に盜奪を目的とする匪賊は急速に減少し旧勢力の残置した政治的匪賊は其本体からの指導援助が弱化した民衆の支援も稀薄となり糾合した無頼の徒も逐次離散して漸く勢威を失墜して来る此際新勢力は速に政治匪賊の蠢動区域に相当の兵力を分散配置し所謂匪民分離を徹底し匪域の良民を集団部落に收容して十分掩護すると同時に之に生活の保證を興へ檢察を嚴重にし匪域に物資の流入を遮断する一方投降者を優遇し匪域内に巧みな宣傳等を行へば逐次脱落者を生じ自然的消滅を見るか又は割合容易に匪首を捕獲出来る様な状況に導くことが出来る様匪賊は野獸に似た所があるので交通網が発達し文化が前進すれば自ら不毛地帯に後退するものである故に交通網の整備は匪賊討伐上第一に着意すべき要件となる

匪賊討伐上飛行機は特に有効である蓋し匪賊は無智な者が多いから飛行機からの攻撃には著大な恐怖心を起し離散に導き易く手足を失った匪首を案外た易く捕獲し得る場合が少くないからである

(註) 昭和十五年一月頃(一九四〇)樺松附近で匪賊を討伐する際、豪江南方山地森林内に潜伏して居つた匪団に對し通化飛行場から二機を以て交互間断なく攻撃し搭乗者は航空病にかゝる位であつたが匪団は堪へ切れずに全く離散し匪首一人のみ彷徨つて居つたのを難なく捕へたことがある

本地域内で今尚此種匪賊の存在を許すのは白樺山附近の密林地帯か開魯西北方廣漠地位ではないかと考へられる

匪賊の討伐は通常融氷季を可とする何故ならば森林が通視容易であり河川濕地の通過が通氣自在だからである又積雪は本地域に在つては大して行動を阻害しない

作戦に關聯して匪賊を逐進的に機縦使用し効果のあることがある



(註)

1. 日露役明治三十八年春(一九〇六)花田中佐の指導する滿洲義軍は通化附近に在つて遠く滿洲軍の右側背を掩護し露軍の側背に間接的脅威を與へた

2. 日露役明治三十八年一月(一九〇六)永沼挺進隊の露軍後方の鐵道線を攻撃するに方つて馬賊の一隊が協同動作して居る此挺進は露軍をして後方警備に甚大な兵力を割くに至らせ奉天會戦に大きな効果を及ぼした

匪賊を擁護する場合には指導者を嚴選し其指導の下に嚴正な規律を保持し常に地方民に對し溫和而も嚴肅な態度で臨まることが緊要である

(註) 漢民族は指導者を信頼すれば他民族に對しても絶對に服従し最勇敢に戰鬥する性質がある太平賊討伐の淮軍が英人イムドンに對する実例の外滿洲國境に於ても日本工藤上尉(日本軍隊にては上等兵)の指揮の下に其中隊は日本軍以上とい

うも可なる位に勇敢に戦斗した同上尉は寒中でも満人兵員と共に屋外に假眠し峻峻な山地を常に先頭立つて行動し絶對の信頼を得て居つた

#### 其の四 季節の特性

#### 一、冬季

冬季の戦術上に於ける特性は寒氣の爲特に防寒具を差けること、依り行動鈍重となり積雪と相付ち行進速度、行軍行程等は短縮し又土地の開閉困難なるが故に陣地の築設其他工事の実施に多大の障害を受け兵器にも故障を生じ易く給養補給等にも特殊の注意を要する等の点に在る尙航空の方面に就ては第二章第三節で述べたから此處では略する

本地域は冬季河川湖沼殆んど皆凍結し行動は自由となり森林平地等亦通視自在となるから掩蔽が得られぬ代りに奇襲を受け不慮も少くなる

夜間には普通氣温が更に著しく降下するから行軍宿營等に際し細心の注意をしないと多数の凍傷者を生じ戦力を激減する虞がある然し寒氣のため受ける阻害の程度は習熟鍛練の如何に依つて大差があるから単に已れの状態のみを以て判断すれば意外の不覺を招く心配が無しとしないのである

以上の見地からして大きい機甲部隊を遼河下流地域で運用するのは寧ろ冬季を有利とする様に思はれるが又若し上陸作戦に引き續いて此地域に進出し様とするならば此季節の強い西北風が渤海及黄海沿岸に對する上陸を相当困難にすることを考慮しなければならぬ従つて氣象の細密な研究と良好な上陸点の探求とが特に緊要となつて来る

### 三 夏季

夏季の影響は年に依つて相當の差があるが概して従来考へられて居る程大したものではないと思はれる即ち多くも一週間及至十日位作

戦行動を中止する程度に止るであらう唯、雨季に伴つて大出水のある年は或る時期或る方面に對して全く作戦を放棄しなければならぬことがあり得るかゝる方面は通常奉天の西方附近から下流の遼河水域及其西方の区域と思はれる。

雨季平地路外の行動は戰術的に相當の困難を伴うのは諒を待たぬ従つて京奉、奉大線西側の地区に於ける大兵力の使用を不利とする場合がある。

雨季の出水は從來の記録に徴し、水源地方面の氣象を知れば時期程度等を概ね判定し得るであらうから必要の資料を得て予め對應の處置を講ずるに努めるのを可とする。

航空作戦に及ぼす雨季の影響は地上作戦協力に於て特に安奉線より東北の比高大なる山地方面が著しい。

### 第三款 本地域の戰術的特徴及要点

本地域は進入者の側から見れば攻むるに難く保持も亦難く防衛者の側から見れば守るに易く攻むるにも亦易いといふ戰術的特徴がある即ち東南面して居る白頭山―鴨綠江―黃海沿岸の線が所謂天險である許りでなく其前方に北鮮という瘤を持つて居つて之が兩面を海に托し安州―威興の線に於ては幅員一五〇吉餘に過ぎず而も其一〇〇吉は撫ね山地を利用し得る堅固な障地線を成して居るから之が突破は容易ではない威興方面は海上から脅威に依つて比較的容易に撤退を強い得るとしても尙白頭山―狼林山脈―黒川江の線は相当時間鞏固に保持し得るであらう又此瘤をその備にして置いてすぐに黃海北岸に上陸を敢行するの敵の戦力が十分な間は大なる冒險たるを免れたいのである

次に白頭山―鴨綠江及其西方黃海沿岸の線は險峻な山地、大河海岸という特殊の地形に於ける作戰を惹起するもので其程度は特別な裝備と準備と訓練とを前提としなければ成功を期し難い位のものである

唯其方面は約六〇〇吉に及ぶから敵の不意に乗じて某一点を突破し

之を擴大して全正面の瓦解に導き得る見込はある而して之は黃海北岸上陸の成功に期待する所が頗る多く更に之には此の方面の制空と共に於て、青島、上海等からする潜水艦の活動に對する制海權の確保を基礎とする又此際普蘭店―魏子窩の線以南關東半島に敵が相當の兵力を保持して居るならば少くも金州附近の狹隘以南に押し込んで置かないと上陸後の大規模な北進は多大の脅威制肘を蒙ることとなる航空作戦に於ても特に地上作戦協力部隊は自然朝鮮の狭い地域に密集配置されることとなり敵の支那本土から滿州北鮮に亘り包圍的に廣汎な機動ををしつゝ自由に攻撃して来るものに對し不利を免れない

鴨綠江の線を突破し得ても奉天に至る間には安奉線に沿ひ尙巾約一五〇吉の山地帯があり其分水峯附近は比高六、七百米に及ぶから此地帯の通過も亦決して容易でなく此間敵は白頭山―通化の線、平頂山―通化西方約一〇〇吉―草河口―安奉線上奉天南方約一一〇吉―柞木城―奉天西南約一三〇吉の線附近を各々堅固に防止し兩地区の間

又は奉天沿線地区から攻勢に出て決戦を企図することも考へられる。四  
 平街、奉天、梅花口を結ぶ環状線路奉天線、遼河水路等は此場合の兵  
 力運着材輸送等に相当の價値を發揮するであらう  
 右の次第であるから鴨綠江渡河後奉天攻略の爲には進入者の兵力重点  
 は或は自然安奉線以西の地域に移り且速かに一部を以て遼河の右岸か  
 ら奉天の背後に逼らせる策に出やう此目的の達成には渤海西北岸に適  
 時上陸を行ふのが適當なことのゑるべきは已に述べた通りである  
 大石橋から奉天に至る間奉天直接の防衛等のため要線と見るべきもの  
 は鞍山附近高地脈の線、遼陽附近太子河の線等がある  
 奉天附近に進出し得ても敗退した敵が尙遼河の線白頭山―三源溝―鉄  
 峯―法庫門の線等に據るとは可能であつてかゝる態勢の敵に對して  
 は着んで包圍圈内に投ずる格好となり遼河右岸の敵を遠く西方に撃攘  
 して該方面の煩累を除けば西北方に大なる空隙が發生し結局奉天を中  
 心とし放線狀に兵力を分散する傾となり困難な事態に陥る虞が少くた

いのである

遼河以西は河川南北流するものが相平行して歩々の抵抗を容易にし特に大凌河の線は阜新―溝帮子附近の高地線に接続し熱河、山海関兩方面への鉄道及道路を制し重要な陣地線を形成して居る更に西方山海関―長城―熱河省境の線は西方に對しては相当堅固さを持つが北方からの脅威に對しては到底長時日の保持に堪へない

白頭山―三源浦―鉄峯―法庫門の線以北に於ては白頭山―朝陽鎮―四平街―通遼附近の線及松花江の線が主要線であるが此等を攻撃する場合左側背が常に大きい脅威を受け敵の翼働に思ひ切つて重点を指向することは通常甚だ困難となる

(註) 大凌河―阜新―溝帮子の高地線は滿洲事変に於て奉天附近を撤退した張学良が集結再起を図つた所であるが昭和七年一月(一九三二)第二十師団の奉山線に沿う前進に会し戦はずして撤退した



2 日露役明治三十七年八月（一九〇五）露軍は遼陽附近太子河の兩岸に亘り陣地を占領し日本軍右翼の渡河部隊に對し絶對の優勢を以て攻勢に転じたるも成攻せず日本軍主力は遼陽周邊の設堡陣地の攻撃に依り損傷多大、追撃の餘力をなく露軍の隨意退却により会戦が終了した

3 日露戦役間遼河河畔の開放地域が常に彼我の機動脅威の對象となつた即ち明治三十八年一月（一九〇六）黒溝台の会戦は露軍の我が左側背に對する包圍攻撃の未成に終つたもの同じ頃のミシチェンコ騎兵團の營口附近迄の挺進は殆んど我背後連絡線の蹂躪を可能ならしめ、明治三十八年（一九〇六）二月より三月に亘る日本軍第三軍の露軍側背に對する繞回運動は其退路の遮断を殆んど成功せしめんとした

昌圖東西の線、四平街東西の線は夫夫日露戦役（一九〇六）に於て奉天会戦後日露兩軍の相對峙した要線である

平齊沿線方面に於ては地形上堅固な要線と目すべきものはないが東、西遼河の線は著明な目標を呈するので軍の行動を規整する等の爲要線として利用されるものと思はれる

本地域を領有し得た後の確保は西北正面の開放されて居る關係上特に困難である集結した兵力を交通上の要점에把握し好機を捉へ迅速な機動に依つて分離して居る敵を各個に撃滅し之を反覆するのが先づ取るべき良策であつて諸般の關係から之が不可能になつたならば逐次戦線を後退收縮し連繫統一した線を構成するやうになるであらう此場合の要線は白頭山―柳河―渾河の線から奉天附近を経て遼河下流に遶るものであり更に白頭山を軸として左翼を後退させねばならぬ場合には一兵團を關東半島方面に策動させ主力方面に向う敵の側背を脅威させるのが有利である

以上に依つて進入者と防衛者との戦術上本地域に於て受くべき利害の影響を略説したのであるが之を要するに本地域の地形は戦術的に大體

して全滿の縮図であり山地、大河、平地、濕地、住民地、狹隘森林、  
 曠草地、廣漠地上陸、鉄道等各種特殊の戰鬥は悉く本地域内に於て惹  
 起されるから本地域で迅速に成果を擧げ得る軍隊の訓練裝備戰法を以て  
 したならば全滿行く所として可ならざるはないてあり唯々寒氣、積  
 雪の影響は他地域に比して少く住民多きため宿營給養掩蔽が容易であ  
 り交通網の發達に伴つて兵力転用、補給等が敏速十分に行はれ得る利  
 点が本地域の特權であることに予め考察を払はねばならぬ又上陸作戰  
 は北鮮を除き又長城の様な特殊術工物の險難な山地にあるものゝ攻防  
 は熱河を除き本地域のみは起り得る所である